

1 はじめに

本校では、さいたま市教育委員会から「さいたま STEAMS 教育」の研究指定を受け、令和3年度から3か年にわたり、「自ら課題を見出し、協働学習を通して豊かに表現することのできる児童の育成」を主題に研究実践を進めた。加えて、令和3年度から、学校教育目標である「自他を大切にして主体的に学び生きる力をはぐくむ児童の育成」に基づき、「自分や他人の大切さを認める」という部分に重点を置き、「自他のよさを認められる児童の育成」を主題に研究実践を進めた。

令和3年度は、STEAMS 教育では「課題を見出す」と「協働学習」という2つのキーワード、人権教育は「自他のよさを認める」というキーワードをもとに、各ブロックが考えた視点で2年生は図画工作科、3年生は理科、6年生は体育科の実践をした。また、人権教育の理解を深めるために、NPO 法人 ReBit の中島潤様による LGBT の研修会を行った。成果として、STEAMS 教育の視点では、表現活動に向けて、友達に自分の考えを伝え合ったり、見合ったりする時間を確保することで、生き生きと表現活動する姿を見ることができた。また人権教育の視点においても、自分の考えを伝え合うだけでなく、お互いのよさを認め合う時間を確保することで、自己肯定感の低い児童でも安心して活動する姿を見ることができた。また、しかし、模索の1年だったため、学校として統一した手立てを立てて、実践していくことが課題として残った。

それを踏まえ、令和4年度では、STEAMS 教育は「自ら課題を見出す学習の工夫」、「児童が協働学習を通して豊かに表現するための支援」という視点、人権教育は「児童が自他のよさを認めるための工夫」をもとに、1年生は図画工作科、3年生は算数科、6年生は体育科の研究実践を進めた。具体的には、全校で統一した学習の流れをもとに授業を進めていくこと、STEAMS 教育の学習を通して作成した児童の成果物をアートステージに掲示をすること、協働学習をより円滑に進めていくために ICT を活用することの3点を中心として実践を進めることとした。

2 指導実践について

(1) 第3学年 算数科

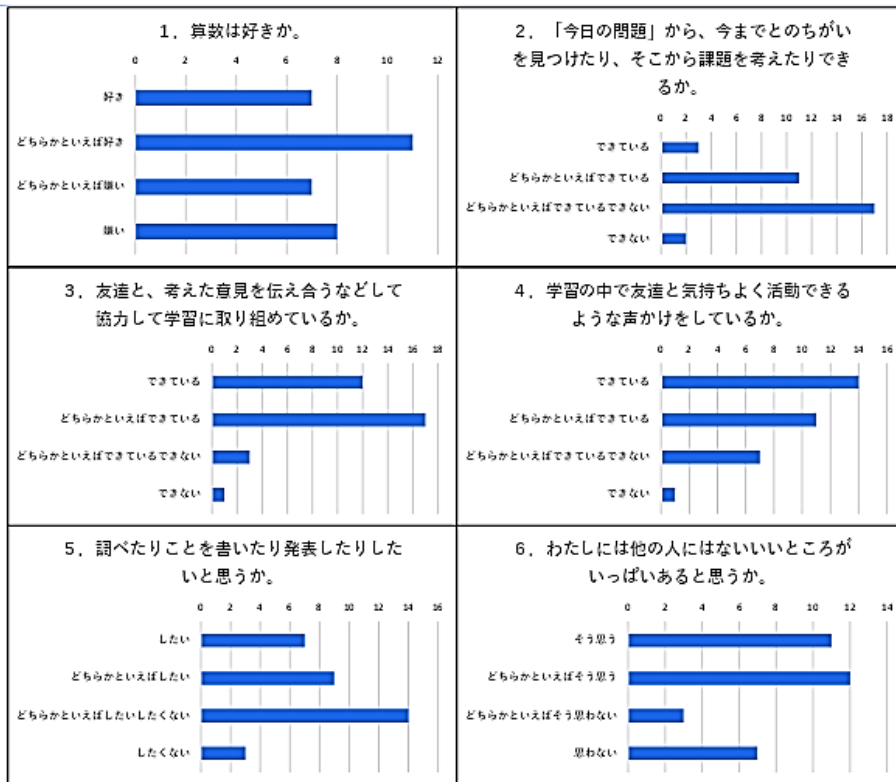
第3学年3組 算数科学習指導案

令和4年11月15日(火) 第5校時
 授業者 仁木 文香
 在籍児童数 33名
 学習場所 3年3組教室

1 単元名 重さをはかって表そう

2 児童の実態と単元設定の理由

(1) 児童の実態



日常生活の中で「重い」と感じる場面はどんな時か。

- ・月曜日の登校。(月曜セットがあるから。)
- ・習字バッグがある登下校。
- ・雨の日の金曜日の下校。(傘と月曜セットがあるから。)
- ・新学期の教科書。
- ・学期末の作品バッグ。

「重さ」の単位で知っているものはあるか。

- ・g (3人)
- ・kg (2人)
- ・トン (1人)

10月に3年3組33人にアンケート調査を行った。その結果、設問1では算数に対して肯定的な回答18人(54%)であり、授業では積極的に発言をする児童と、そうでない児童とで二極化している。また、設問2の課題設定に関する項目に対しては、「どちらかといえばできていない」が最も多く17人(51%)だった。設問5の表現に関する項目に対しては、「どちらかといえばしたくない」が最も多く、14人(42%)だった。また重さに関するアンケートでは、日常生活の中で「重い」と感じる場面は、登下校の荷物の量によって感じるようだが、まだ重さの単位については知らないようで、体感として重さを感じることはあるものの、重さを理論的には理解していないことが分かる。

児童の普段の授業の様子を見てみると、課題設定はクラス全員で行っており、課題となるキーク

ードをつぶやく児童が多く、積極的にみんなで課題設定をしようとする姿が見られる。ただ、個人で課題をたてるとなると手が止まってしまう児童が多く、アンケート通り、自分で課題を見出すのは難しい様子が見られる。また、自分の考えを発表する際は、単元の中盤で流れが何となく分かっていて答え方がはっきりしている時は多くの児童が発表しようとする姿が見られる。しかし、単元の序盤や様々な考え方を見出せる時は決まった児童が発表しているので、ほとんどの児童は受け身の姿勢になっている。

これらのことから、本学級の児童は、自分で課題設定をすること、自分の考えを表現することに課題がある。そのために、課題設定をさせるために、前時の問題点をしっかり想起させその問題点を解決していくようにアプローチしていく。また、自分の考えを表現する力をつけるために考えるポイントを明確にしたり、自分の考えに自信を持たせるために児童同士が考え方を共有する時間や器具を調整したりしていく。

(2) 単元設定の理由

本単元は、小学校学習指導要領第3学年の内容C測定(1)長さ、重さの単位と測定を受けて設定したものである。身の回りのものの特徴に着目し、測定する対象の大きさのおよその見当を付けて適切な計器を柔軟に選択したり、長さや重さの単位を関係付けたりすることを主なねらいとしている。また、児童は、日常生活の中で「重い」「軽い」という感覚を体験してきている。その中でも単元を通して「登下校時の持ち物の重さ」に着目をする。また感覚的に思っている持ち物を持てる限界を、数値として理論的に理解するために、「持ち物をどれだけ持てるのか。」という課題解決に向けて学習を進めていく。こうした経験を生かして、ものの重さや概念やその測定の仕方などについて理解することをねらいとしている。

3 研究の視点とのかかわり

<STEAMS教育 研究主題>

自ら課題を見出し、協働学習を通して豊かに表現することのできる児童の育成

<人権教育 研究主題>

自他のよさを認められる児童の育成

(1) STEAMS教育上の研究の視点

	視点① 児童が自ら課題を見出すための学習の工夫	視点② 児童が協働学習を通して豊かに表現するための支援の工夫
具体的な手だて	<p>ア 重さに関心を持ち、主体的に考えることができるように、児童にとって身近な「登下校の荷物」をテーマにして学習を進める。</p> <p>イ 授業の終末に振り返りをし、そのことを次時の学習へつなげて課題設定へ考える視点を与える。</p>	<p>ア 共同編集のパワーポイントを活用し、考えの過程が見える化したり、結果を共有させたりしたものを、どのような見方をすればいいのか視点を与える。</p> <p>イ 班で数学的活動を取り入れ、活動する中でお互いの考えを交流させ、自分の言葉で表現する手がかりにさせる。</p>

(2) 人権教育上の研究の視点

	<p>視点①</p> <p>児童が自他のよさを認めるための工夫</p>
具体的な手だて	<p>ア 自分の意見に自信を持たせるために、机間指導をして教師が目標に沿った考え方をしている児童の成果物を評価し、肯定する。(例：ノートに花丸)</p> <p>イ 友達のよさを認めさせるために、友達の意見をよく聞く際に、「なるほど!」「そうなんだね!」と反応しながら聞く雰囲気づくりをする。</p>

4 評価の観点及び評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重さについて、単位や単位の間隔を理解し、およその見当をつけ、適切な計器を選んで測定することができる。	身の回りのものの重さやその単位に着目し、量感覚を身につけたり、単位の間隔を統合的に考え、説明したりしている。	身の回りにあるものの重さやそれらを数値化することのよさ、普遍単位の必要性を振り返り、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。

5 単元計画 (1 1時間扱い)

時数	ねらい ・ 主な学習活動	○指導上の留意点 【★STEAMS 教育上の配慮】 評価
小単元1 重さのくらべ方		
1	<p>重さの比べ方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果より、重さを感じることが登下校の荷物であることを確認する。 実際にいろいろな物を手で持って比べ(直接比較)、重さは見た目に関係がないことをおさえる。 いろいろな文房具を手で持って重さを比べる。 	<p>○単元全体として「登下校の荷物」に着目して授業を進めていくことを共有する。【★視点①ア】</p> <p>○班で共同作業をして重さ比べをさせ、重さの順位をつける。【★視点②ア】</p> <p>○手で比べると曖昧で分かりづらいことから、道具を使う必要性、有用性を感じさせる。【★視点①イ】</p> <p>態身の回りのものの重さを手で比較することを通して、量感覚を身につけようとしている。</p>
2	<p>道具を使った重さの比べ方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな文房具の重さの比べ方を考 	○傾きがはっきりしない結果があることで数値

	<p>える。(道具を使った比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> コンパスとはさみの傾きがはっきりしないことを共有する。 どちらがどれだけ重いかを調べる方法を考える。 	<p>化する必要性や有用性を感じさせる。【★視点①イ】</p> <p>態身の回りのものの重さを直接比較することを通して、量感覚を身につけようとしている。</p>
3 本 時	<p style="text-align: center;">どちらがどのくらい重いか比べる方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな文房具の重さの比べ方を考える。(任意単位比較) 何が何個分かをパワーポイントの表にまとめ、共有する。 数値化することで、何がどれくらいかが分かること、物と物がどれだけ違うのかが分かることを確認する。 	<p>○前時に出た課題を想起する時間をとり、本時の課題につなげる。【★視点①イ】</p> <p>○パワーポイントに数値を入力させ、すぐに共有させる。【★視点①ア】</p> <p>○各班の結果の共通点や、本時以外の道具で測った結果を児童に伝え、共通の単位の必要性を感じさせる。【★視点②ア】</p> <p>思任意単位を用いることで身の回りのものの重さを数値化して表すことのよさを説明している。</p> <p>態身の回りのものの重さを即し、数値化することのよさに気づき、学習に生かそうとしている。</p>
4	<p style="text-align: center;">重さの表し方を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重さの表し方を知る。(グラム、g) 1円玉を使って、前時以外の身の回りのものの重さをはかる。 	<p>○1円玉=1gであることをおさえ、パワーポイントに結果を入力し、他の班の結果を共有しやすくする。【★視点②ア】</p> <p>知重さの単位「g(グラム)」を用いて、身の回りのものの重さを表したり、重さの見当をつけたりすることができる。</p>
小単元2 はかりの使い方		
5	<p style="text-align: center;">はかりのしくみを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> はかりを使うために、はかりの文字盤を観察し、何がかけられているか、細かいところまで確認し、はかりの使い方を学ぶ。 実際に筆箱ではかりの重さをはかる。 	<p>○班の全員の筆箱の重さをはかりで測り、重さの違いを比べる。【★視点②ア・イ】</p> <p>知秤量1kgのはかりの目盛りの読み方を理解している。</p>

		<p>思数直線と同様にはかりの目盛りが読み取れることに着目し、目盛りの読み方を考え、説明している。</p>
6	<p>重いものの重さの表し方を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ランドセルの重さをはかる。 さらに使用範囲が重いはかりで教科書が入っていないランドセルの重さをはかる。 1 k g = 1 0 0 0 g の単位関係を理解し、単位変換の仕方を知る。 	<p>○前回ははかりでは限界があることに気づかせる。【視点①イ】</p> <p>○位取り表をもとに、複名数表記の表し方を確認させる。【視点①ア】</p> <p>知1 k g = 1 0 0 0 g の単位関係を理解している。</p> <p>思既習の秤量 1 k g のはかりの目盛りの読み方を用いて、秤量 2 k g のはかり目盛りの読み方を考え、説明している。</p>
7	<p>重さの計算について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ランドセルの全体の重さの計算について考える。 ランドセルと中身の重さが全体になることを知る。 同じ単位同士で計算をする。 1 週間の荷物の重さを計測することを伝える。 	<p>○前時は中身なしのランドセル、本時は中身ありのランドセルにし、ランドセルの全体と中身の重さの加法性に気づかせる。【★視点①イ】</p> <p>知正味、風袋、全体の重さの関係に着目して、重さを求めたり、1 k g の量感を身につけたりしている。</p> <p>態重さの関係に着目し、重さの加法性や測定したことを振り返り、生活に生かそうとしている。</p>
8	<p>とても重いものの重さを表すたんいを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 t = 1 0 0 0 k g の単位関係を理解し、トンとキログラムの単位変換の仕方を知る。 	<p>○キログラムで表した重さを見て、より重いものの重さを表す単位の必要性を確認させる。【★視点①イ】</p> <p>知重さの単位「トン (t)」1 t = 1 0 0 0 k g について理解している。</p>
9	<p>単位の前につくことばの意味を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の単位を発表し、接頭語のキロ (k) 	<p>○単位をカード化して動かせるようにし、それぞれ</p>

	やミリ (m) の意味を考える。	<p>れの単位の関係を表せるようにする【★視点②ア】。</p> <p>思 既習の長さや重さ、体積についての単位とその接頭語に着目して、それぞれの量の単位の関係を考え、説明している。</p>
小単元3		まとめ
10	<p>学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 P33 たしかめようの問題を解く。 	<p>知 基本的な問題を解決することができる。</p> <p>思 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。</p>
11	<p>1週間の計測結果をもとに、自分の荷物の分析をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1週間の計測結果を確認する。 何曜日にどれだけの重さの荷物を持っているかを分析する。 分析をもとに、どのように荷物のバランスを工夫するのか考えさせる。 	<p>態 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習や生活に生かそうとしたりしている。</p>

(他教科との関連)

- 理科：物の重さを比べよう

6 本時の指導計画（3／10）


（1）目標

- ・任意単位を用いることで身の回りのものの重さを数値化して表すことのよさを説明している。
(思考・判断・表現)
- ・身の回りのものの重さを測定し、数値化することのよさに気づき、学習に生かそうとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

（2）展開

児童の活動	指導上の留意点（・） 予想される反応（○）	【観点】 〈評価方法〉 ★STEAMS 教育上の配慮 ☆人権教育上の配慮	時間 (分)
1 前時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時は傾きに注目しながら直接比較したことを確認させる。 ・コンパスとはさみを測定したときはどうだったのかを想起させる。 ○どっちが重いのか分かりづらかった。 		3
2 本時の問題を知る。			2
コンパスとはさみはどちらがどのくらい重いでしょうか。			
3 課題をたてる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の測り方の問題点を考えさせる。 ○何回も測らないといけなかった。 ○傾きがほとんど変わらないものがあるってどちらが重いのか分からなかった。 ○物と物の差がどれくらいか分からなかった。 ・測り方を変える必要性を実感させ、課題をたてさせる。 	★既習の学習を想起し、前時の比較の仕方の課題点を見出す。	2
どちらがどのくらい重いか比べる方法を考えよう。			
4 比べる方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・長さのときはどうしたかを想起させる。 ○消しごむが○こ分と表した。 ○「もと」を決めて、それが何個分かと表した。 ・今回も長さのときと同じく、もとを決めて測定をすることを全体で共有する。 	★既習事項を想起させ、比べる方法を考える。	5



<p>5 適当な任意単位を使って重さを測定する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「もと」に適しているものがどのような性質なのかを考えるため、さまざまな「もと」になるものを用意する。(砂、不揃いのクリップ、不揃いな折り紙、積み木、1円玉など) ・同じ重さでたくさんある、積み木と1円玉が適していることを確認して、測定にうつらせる。 ・各班に重さを測る装置、支え台、積み木、1円玉を用意し、計測する準備をさせる。 ・児童に計測の仕方を確認させるため、教師が例として実際に測ってみせる。 ・各班で1人タブレットを用意させ、計測した結果を共同編集のパワーポイントに入力をさせる。 ・テレビ画面に共同編集しているパワーポイントの画面を投影し、周りの班の進捗状況を目で確認できるようにする。 	<p>☆友達の見聞を聞くときは、「なるほど。」「それ、いいね。」など認め合いながら聞くように指導する。</p> <p>・身の回りのものの重さを即し、数値化することのよさに気づき、学習に生かそうとしている。【態度】 <授業態度></p>	<p>12</p>
<p>6 結果から気づいたことを発表し、任意単位で測定する良さを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積み木と1円玉の結果で分かった「どちらがどのくらい重いか」を各班発表させる。 ・どれだけ重かったのかの「差」を出すためには、何の数値を比べれば分かるのかを確認する。 ○例えば積み木だとしたら、積み木で測ったコンパスとはさみの数を引き算したら分かる。 ・それぞれ重さがどれくらいか数で分かると、どれくらいの差があるのかが分かることをおさえる。 ・積み木と1円玉の結果を見て、気づいたことを発表させる。 ○もと同じであれば、測定結果の数値がだいたい同じ。 ○もとにするものが変わると測るものと同じでも個数が違う。 		<p>13</p>

<p>7 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・直接比較のときよりも任意比較でやるよさを考えさせる。 ・「今回の測り方で、前回よりもさらに分かりやすくなったところはどんなところですか。」と発問し、個人で考える時間をとったあと、班で考えを共有させる。 ○何が「○こ分」となのが分かる。 ○物と物の差を「○こ分」と表せる。 ・個人で意見を考え、班に共有させる。 ・挙手して発表させ、まとめの手がかりにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・任意単位を用いることで身の回りのものの重さを数値化して表すことよさを説明している。 【思・判・表】<ノート> 	<p>3</p>
<p>同じ重さのものがあると、重さも数で表せる。</p>			
<p>8 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りをノートに書かせ、挙手で発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆児童の振り返りを机間指導し、本時の内容に合った振り返りには花丸をつけて自信をつけさせる。 	<p>3</p>
<p>9 次時の予告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で扱った積み木と1円玉以外のもととして、クリップ、画鋸は何個分であるかを伝え、普遍単位の必要性を感じさせ、次時の学習につなげる。 		<p>2</p>

(3) 板書計画



(4) 資料

①児童の配付資料

	コンパス	はさみ	電池	三角定規	セロハンテープ
積み木					
一元玉					

コンパスとはさみ以外のものは次時に測定する。

②パワーポイントの資料

積み木	1	2	3	4	5	6	7	8
コンパス								
はさみ								

一元玉	1	2	3	4	5	6	7	8
コンパス								
はさみ								

↑実験で分かった個数を描画モードで手書きさせる。

【協議会まとめ 3年「重さをはかって表そう」】

<成果と課題>

STEAMS 教育	人権教育
<p>○前時を想起しながら、教師との対話の中で課題を見出そうとしていた。</p> <p>○数学的活動に対しての意欲が高く、グループごとに試行錯誤しながら主体的に取り組んでいた。</p>	<p>○児童の発言に一つ一つ反応することで発言の価値づけがなされていて、児童が授業に積極的に多く発言していた。</p>
<p>●<u>グループ間での結果の差異やずれを基にして</u> 考察をすることで、より学習が深まる。</p> <p>●<u>目的に対する取り組みの細分化と十分な時間の確保</u>をすることにより、児童がより学習・思考を深めることができる。</p>	<p>●<u>子どもを褒めたいポイントを事前に考える</u>ことで、効果的な教材研究の進め方や児童自身の意欲を高めることに繋がると考えられる。</p>

<指導講評> 指導1課 清水 則仁 主任指導主事

- ・授業における「豊かさ」とは何か。どういう姿を「豊かさ」ととらえるのか。表現の仕方、算数的な表現を豊かにしたいのであれば、算数的な活動、具体的な体験活動を取り入れていくことが必要。そのためには時間の確保が大切なのではないだろうか。（発問との間、活動の時間、考える時間、書く時間等）
- ・算数とは、拡散（班活動）し、収束（個人の考え、答えに近づく活動）があるものである。収束の際には、協働学習のままの隊形ではない方がよい。
- ・課題の設定について、児童の発言の価値づけを行っていくとよい。導入時に「長さの学習」を振り返ったことが良かった。この後に、課題の設定を行っても良かったのではないか。その際に、教材研究を通して子どもを褒めたいポイントを探していくとよい。子どもたち自身が、新たな価値を見出せるようにしていくことが大切。また、課題とまとめの不一致があった。任意単位のよさを深めるためには、長さの話を深めて、任意単位があれば、基を使って考えるという展開にもっとつなげていけたらよいのではないだろうか。
- ・STEAMS 教育は、新しい産業に取り組む力でもある。今ある物に、新しい価値を見出していくことが求められている。

2) 第1学年 図画工作科

第1学年3組 図画工作科学習指導案

令和4年12月9日(金) 第5校時
授業者 小笠原里恵
在籍児童数 33名
学習場所 体育館

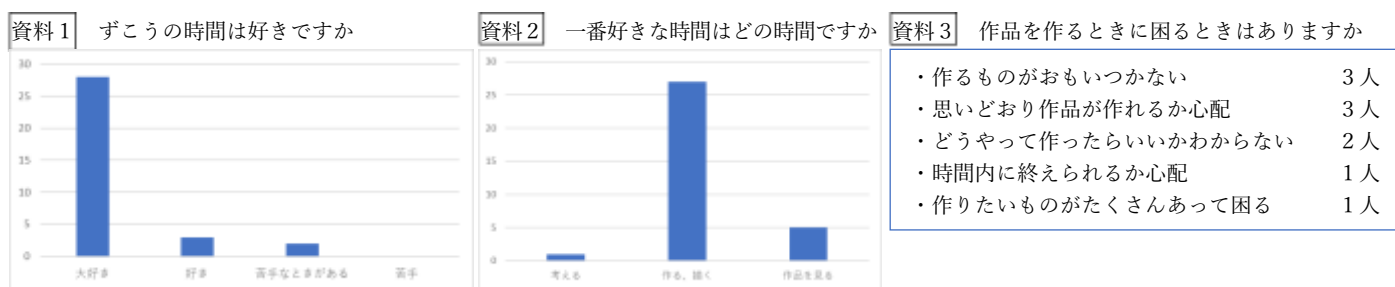
- 1 単元名「はことはこをくみあわせて」
- 2 児童の実態と題材設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は、図工への関心が高く、「図画工作の時間が好きですか」に対してほとんどの児童が肯定的な回答をしている。その中でも「つくる、かく」という製作の場面が好きだと答える児童が多い。(資料1、資料2)一方で、児童が図画工作に苦手意識をもっている児童もいる。「作るものが思いつかない」という構想や発想の段階で課題を抱えている児童がいる。(資料3)さらに「考えたものの作り方が分からない」という技能面で困難さを感じている児童もいる。

2学期の題材「みて、みて、いっぱいつくったよ」では、動物を作ることをテーマにし、動物園で見た動物の様子を思い出しながら、くっつけたりひねり出したりして活動した。「作るものが思いつかない」という児童も初めから手を止めることなく活動することができた。

実際に動物を見たことでイメージをもちやすく、課題である発想や構想でつまづくことがなかったのではないかと考える。また、技能面で困難さを感じている児童もいることから作品の作り方がいつでも振り返れるように掲示物、展示物にも工夫が必要であると考え。友達の意見をヒントにしたり、グループの友達と話したりすることで自信をもって活動できるようにしていきたい。



(2) 題材設定の理由

本題材は、小学校学習指導要領図画工作、第1学年及び第2学年の内容 A 表現 (1) イ (2) イ及び B 鑑賞 (1) ア、[共通事項] (1) ア、イを受けて設定したものである。

本題材は、箱を組み合わせてつくりたいものを思いつき、組み合わせ方やつけ方を工夫する力を培う題材である。接着の経験が少ない児童にとって、あれもこれも考えながら活動することは困難であると感じる。そこで「1ねん3くみどうぶつえんをつくろう」と提案することで、動物園で動物を見た経験から、イメージをもって活動できるのではないかと考えた。さらに、つくった動物をお気に入りの場所に連れていき写真を撮ることで、自分の作品に愛着を感じたり、活動への意欲を高めたりすることができると思う。

第1次では、好きな箱の形や色を選びながら、どんな動物ができるかイメージをもつ。教師が

楽しそうに見立て遊びをすることで活動の意欲を高めていきたい。児童の発言を拾いながら行うことで、想像を膨らませていく。

第2次では、接着の仕方を知り、動物をつくっていく。接着の経験が少なく、簡単に付けられるセロテープを使用しがちである。そこで、ボンドやのりなどを使った接着の仕方を提示し、箱の大きさや形、組み合わせ方によって自分の思いに合った接着の仕方を選んで活動できるようにしていく。

第3次では、お気に入りの場所を見付け、タブレットを活用して写真撮影をする。動物に動きを付けたり、撮影する角度を工夫したりしながら活動できるようにしていく。自分が表したいことを表現する楽しさや充実感を感じさせたい。また、出来上がった作品を見せ合い、お互いのよさを認め合うことで、児童一人ひとりがこれからの表現活動に自信をもって取り組めるようにしたい。

3 研究の視点とのかかわり

<STEAMS教育 研究主題>
自ら課題を見出し、協働学習を通して豊かに表現することのできる児童の育成

<人権教育 研究主題>
自他のよさを認められる児童の育成

(3) STEAMS教育上の研究の視点

	視点① 児童が自ら課題を見出すための学習の工夫	視点② 児童が協働学習を通して豊かに表現するための支援
具体的な手だて	<p>ア 児童と教師が多種多様な材料集めを行い、「材料コーナー」を設置し、自分の作品に必要な材料を選ぶことができるようにする。</p> <p>イ 写真やイラストなどの掲示資料や見本を提示した「ヒントコーナー」を設置し、箱の形や大きさ組み合わせ方によって接着の仕方を選んで活動できるようにする。</p> <p>ウ 作品づくりの途中に、お互いの作品を見てよいところを見つける時間を設定し、友達に技法を聞いて、自分の作品に取り入れられるようにする。</p>	<p>ア 同じ種類の動物、住んでいる場所が近い動物の友達とグループを作り似ている動物を作った友達とグループになり、話し合いながら活動できるようにする。</p> <p>イ 作品づくりの途中に、友達に技法を聞いて、自分の作品に取り入れられるようにする。</p>

(4) 人権教育上の研究の視点

	視点③ 児童が自他のよさを認めるための工夫
具体的な手だて	ア 友だちの作品の変化や工夫したところ、よかったところに気付き伝えられるようにする。 イ 児童の発言や活動している姿を教師が価値付けたり、励ましたりするようにする。

4 題材の目標及び〔共通事項〕※(1)ア、イは、ア____、イ_____で示す。

(1) 箱を並べたり積んだりする活動を通して、箱の色や形の面白さなどに気付くとともに、箱を組み合わせたり接着したりして手や体全体の感覚などを働かせ、表し方などを工夫して表す。

(知識及び技能)



(2) 色や形などを基に、自分のイメージをもちながら、想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、組み合わせ方を考えたりしながら、どのように表すか考えてつくったり撮影したりするとともに、撮影した作品の造形的な面白さや楽しさ、表し方などについて、楽しく発想や構想をしたり、自分の見方や感じ方を広げたりする。(思考力、判断力、表現力等)

(3) 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知いろいろな箱を組み合わせることを通して、箱の色や形の面白さなどに気づいている。</p> <p>技紙箱の組み合わせ方や接着の仕方など、表したいことをもとに工夫して表している。</p>	<p>発色や形などを基に、自分のイメージをもちながら、想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、組み合わせ方を考えたりしながら、どのように表すか考えてつくったり撮影したりしている。</p> <p>鑑色や形などを基に、自分のイメージをもちながら、撮影した作品の造形的な面白さや楽しさ、表し方などについて、自分の見方や感じ方を広げたりしている。</p>	<p>態つくりだす喜びを味わい、楽しく表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p>

6 単元計画（6時間扱い）

<p>時</p>	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な学習活動 	<p>○指導上の留意点（〔共通事項〕との関連 ア__、イ__）</p> <p>★STEAMS教育上の視点</p> <p>◇評価【評価方法】</p>
<p>1次 45分</p>	<p>箱を組み合わせて、どんな動物ができるか試し、つくりたいものを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が箱を組み合わせた作品で見立て遊びをする。 ・箱を組み合わせて動物をつくる。 <p style="text-align: center;">  </p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな動物ができるか考える。 ・学習の見通しをもつ。 	<p>○並べる、積むなどの活動を通して、箱を組み合わせて何かに変身させることに興味をもてるようにする。</p> <p>★材料コーナーの使い方の約束をおさえる。 視点①ア</p> <p>◇発【活動の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○思いつかない児童には動物園で見た動物を想起させ、一緒に考えるようにする。 ○作った作品をどうしたいか投げかけ、学習の見通しをもてるようにする。 ○次時に向けて、材料が必要な児童はさらに集めてくるように声をかける。
<p>2次 125分</p>	<p>思いに合わせて箱のつけ方を工夫しながら、動物をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接着の仕方を知る。 ・作品をつくる。  <ul style="list-style-type: none"> ・作品づくりで困っているところを共有し、解決策を考える。 	<p>○接着の仕方を実物投影機でテレビに投影し、全体で確認できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○のりしろがないものをつけるときは、切り込みを入れて折りひろげ、のりしろを作ってからつける。 ○作品の様子を聞き、イメージを膨らませながらつくるように声掛けをする。 <p>★「ヒントコーナー」から自分の思いに合った接着の仕方を選び、活動できるようにする。 視点①イ</p> <p>★「材料コーナー」から自分の思いに合った材料を選び、活動できるようにする。 視点①ア</p> <p>◇知・技【活動の様子・作品】</p> <p>◇態【活動の様子・発言・作品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○解決策を考え、作品づくりの参考にできるようにする。 ○箱の組み合わせ方、接着の仕方を工夫している児童を取り上げて「拡大君」で投影し、作品づくりの参考にできるようにする。 <p>★友達に技法を聞いて、自分の作品に取り入れられるようにする。 視点①ア</p>

3次 45分 (本時)	お気に入りの場所を見付け、動物の写真を撮る。	<ul style="list-style-type: none"> ○カメラアプリの使い方を想起させる。 ○グループになり、どのような場所で撮影するか話し合 ってできるように声掛けをする。 ★同じ種類の動物、住んでいる場所が近い動物の友達と グループを作り似ている動物を作った友達とグループ になり、話し合いながら活動できるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループになり、お気に入りの場 所を見付け、写真を撮る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇発【活動の様子・対話・作品】
4次 45分	お互いの作品を紹介し合い、作品の楽しさを味わい、見方や感じ方をひろげる。	<ul style="list-style-type: none"> ○撮影した写真をテレビに投影し、各グループの作品の 鑑賞ができるようにする。 ○動物たちはどのようなことをしているか、工夫したと ころはどこかを発表できるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの作品を鑑賞し、面白さや よさを伝え合って交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇鑑【活動の様子・発言・対話・ワークシート】 ◇態【活動の様子・発言・対話】

6 準備

【教師】 空き箱、モデル作品、実物投影機、教師用パソコン、タイマー

【児童】 空き箱、ボンド、のり、セロハンテープ、児童用パソコン

7 本時の計画（5／6時）

(1) 目標

動物や道具を動かしながら、動物たちがどのように過ごしているのかイメージを膨らませて
写真撮影をする。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 準備

【教師】 教師用パソコン、プロジェクター、スクリーン、タイマー、セロハンテープ

【児童】 作品、児童用パソコン

(3) 展開

時	<ul style="list-style-type: none"> ○学習活動 ・予想される児童の姿 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導上の留意点（〔共通事項〕との関連 ア__、イ__） ★STEAMS教育上の視点 ◇評価【評価方法】
導入 10分		<ul style="list-style-type: none"> ○同じ種類の動物、住んでいる場所が近い動物の友達とグ ループを作る。 ★同じ種類の動物、住んでいる場所が近い動物の友達とグ ループになり、話し合いながら活動できるようにする。

	<p>○本時の課題を知る。</p> <p>カメラマンになって、動物の写真を撮ろう。</p> <p>○教師のモデル作品を見る。 ・「餌を食べているみたい。」 ・「早く撮りたいな。」</p> <p>○どのような写真を撮りたいか考える。 ・「楽しい写真がいいな。」 ・「みんなで遊んでみたいな。」</p> <p>○タブレットの使い方を確認する。</p>	<p>○作品のイメージがもてるようにする。 ○写真の撮り方のイメージがもてるようにする。</p> <p>○動物たちはどのように過ごしているか考えられるようにする。</p> <p>○事前に起動させておき、すぐに活動できるようにする。</p>
<p>展開 30分</p>	<p>○カメラアプリを活用して、写真撮影をする。 (3人×11グループ) ・「山や川があると楽しそうだね。」 ・「池で泳いでいるみたいにしたいな。」 ・「みんなで餌を食べているみたいにしようよ。」</p>  <p>○友達の商品を見て、工夫しているところや面白いところを共有する。</p>	<p>○自分の作品の見せたい角度で写真を撮るように声をかける。 ○自分たちが作った動物に似合う場所で撮影できるように声をかける。 「なにをしているところなの？」</p> <p>◇発【活動の様子・対話・作品】</p> <p>○撮影した写真をスクリーンに投影し、様々な作品を見て、見方を広げられるようにする。 ★友達の活動の様子を見合ったり、紹介したりする時間を設定し、自分のイメージを広げたり、深めたりできるようにする。視点②イ</p>
<p>整理 5分</p>	<p>○本時の活動を振り返り、発表する。 ・「みんなで協力して、動物たちが遊んでいる写真が撮れました。」</p> <p>○次時の学習を知る。</p>	<p>○撮影の仕方や友達の行動でよかったところを振り返ることができるようにする。</p> <p>○次時は出来上がった作品を鑑賞することを伝え、活動意欲を高められるようにする。</p>

(4) 板書計画

はことはこをくみあわせて

学習のめあて

がくしゅうけいかく

- ① どうぶつをくっつける
- ② パワーアップする
- ③ シャしんをとる
- ④ かんしょうする

きょうのながれ

- ① せつめい
- ② シャしんをとる
2じはんまで
- ③ ふりかえり

どうぶつたちにさせたいこと

- ・ みんなであそんでいるところ
- ・ ごはんをたべているところ
- ・ ねているところ

やくそく

- ・ グループのともだちと
きょうりよくする。
- ・ いどうは あるく。
- ・ ものを 大せつにつかう。

(5) 場の設定

ステージ

ロイター版

カラーコーン

修理
コーナー

スクリーン

マット

ホワイトボード

道具
コーナー

平均台

跳び箱

【協議会まとめ 1年「はことはこをくみあわせて」】

<成果と課題>

STEAMS 教育	人権教育
<p>○作品を紹介する際に児童の活動を止めなかったことで、夢中になって活動することができていた。</p> <p>○<u>活動の時間が十分確保</u>されていたことで、友達に話しかけながら道具を動かしたり場所をかえたりして試行錯誤することができていた。</p> <p>○お手玉、バケツ、投げ輪などの道具コーナーがあったことで、自分たちで場を作りながら想像を膨らませることができていた。</p> <p>○似ている動物でグループを構成したことで、自分たちが表現したいことを話し合いながら活動することができていた。</p>	<p>○出来上がった作品を教師が<u>価値付けて紹介</u>したことで、よいところを認め自分たちにも取り入れて活動することができていた。</p> <p>○<u>活動の時間が十分確保</u>されていたことで、話しながら活動することができ、励まし合うことができていた。</p>
<p>●作品を紹介する際に児童の活動を止めなかったことで、友達の作品のよさを感じられなかった児童がいた。<u>活動を止めて全員集めてから紹介したほうが、児童の見方を広げることができた</u>のではないか。</p> <p>●自分たちが作った場にかかる時間が短く、思考を深めることができていなかった。<u>グループで話し合う時間を設けたほうがよかった</u>のではないか。</p> <p>●自分たちでテーマを決めず活動を始めたため、「自らの課題」を意識せず活動していた。<u>事前にテーマを決めてグループで共有してから活動を始めたほうがよかった</u>のではないか。</p>	<p>●グループ活動にしたことで、他人任せにしまったり、意見を主張できる児童の思い通りになってしまったりしていた。<u>話し合う時間を設けたほうがよかった</u>のではないか。</p>

<指導講評>東京学芸大学 大村 龍太郎 准教授

- ・低学年は、明確なイメージをもってつくるのではなく、イメージを即興で構図にしていくという発達段階である。図画工作における協働は、一人ひとりがつくりだす喜びを味わいながら、自分に取り入れたり、発想を広げたり、新たな発想の手がかりにしたりする自然発生的・偶発的な協働であったり、一緒に何かをつくらうという思い付きからコラボレートしての協働であったりする。子どもたちの自由性をあたたかく見守っていくことが大切である。低学年図工で基本的には、「自己実現」としての課題解決のための協働（個を大切にした協働）が中心と言える。
- ・本時は、小学校学習指導要領図画工作、第1学年及び第2学年の内容A表現（1）イ（2）イ及びB鑑賞（1）ア、[共通事項]（1）ア、イだけでなく、前時までに作成したものが「材料」になって、造形的な活動として、思い付きで「構図」を変えることを楽しんでいる、1学年及び第2学年の内容A表現（1）アであったといえる。
- ・「課題を見出す」とともに「協働」が成立するとは、①「一人ひとりが自分の課題をもち、その解決のための協働という学び」②「自分『たち』で『個々の力を出し合って』解決したい一つのこと、議論すべきことを焦点化して集団としての課題を見出し、その解決のための協働という学び」がある。本時では2つのことが混ざっていた。このような学びは、日々お互いを尊重し合う人権教育にもつながってくる。
- ・今回は「ICTを活用した図画工作科の授業」であった。図工を中核に据えながらも、それが広がって生活の課題に広がるような単元を構想するでもよかった。「生活科で幼稚園児に紹介しよう」「公民館に飾ろう」などと無理なく横断的につなげることで豊かにしていけるとよい。

(3) 第6学年 体育科

第6学年3組 体育科学習指導案

令和4年1月27日(金) 第5校時

指導者 橋本 真良

在籍児童数 34名

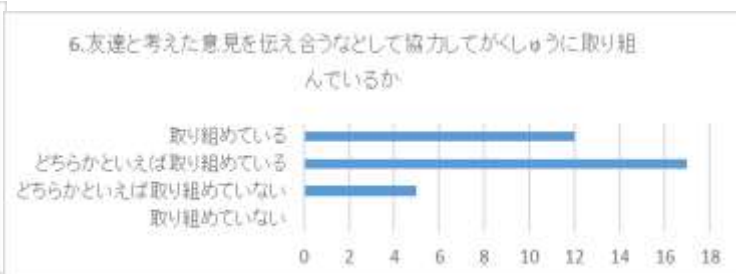
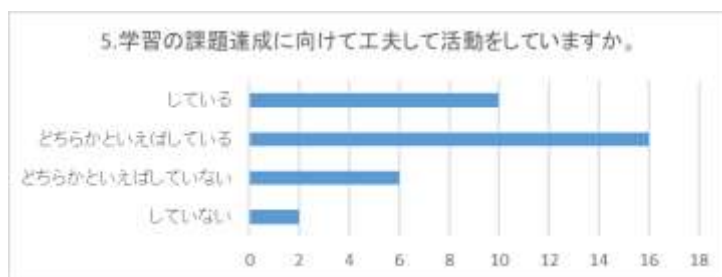
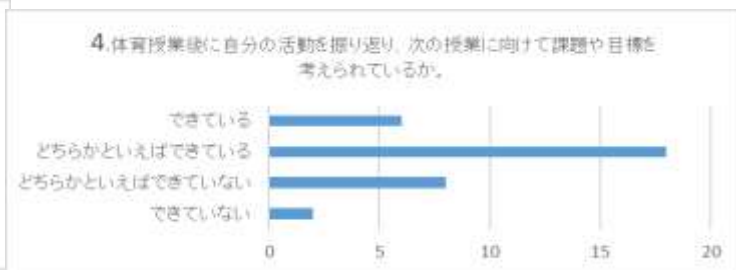
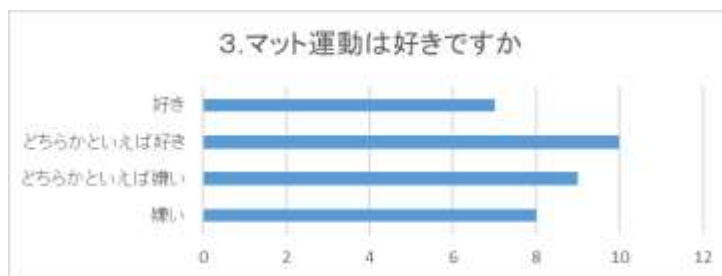
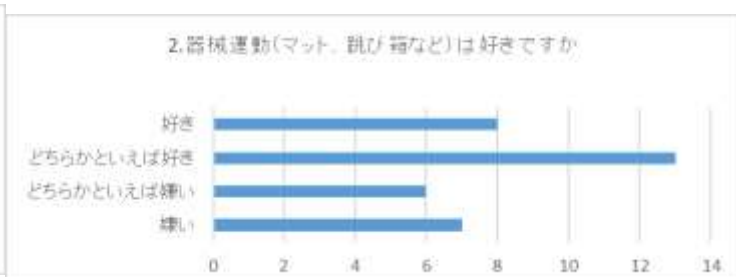
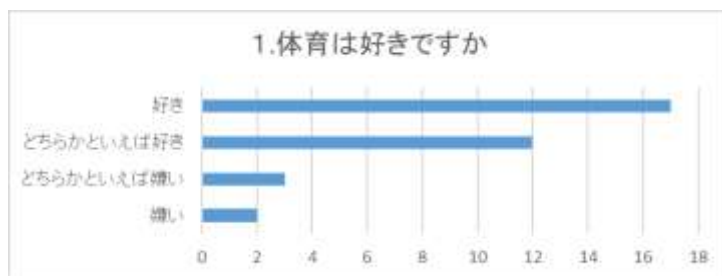
学習場所 体育館

1 単元名

マット運動

2 児童の実態と単元設定の理由

(1) 児童の実態



1～3でどちらかといえば嫌い、嫌いと答えた児童の理由

- ・できない技があるから ・体が硬くて上手にできないから ・マット運動は、あんまりできないから。
- ・体が硬いから ・うまくできない ・跳び箱など、けがをする確率が多くて、怖いからです。 ・マット運動は髪の毛が崩れるから嫌い ・運動ができないから。 ・苦手で、できないから ・難しいから。ケガするから ・上手くできないから
- ・マット運動跳び箱が苦手だから ・マット運動ができないから。
- ・器具を使うと落ちてきたりぶつかったりすると痛いから ・けがをするのが怖い、日焼けをしたくないから

10月に6年3組34人にアンケート調査を行った。その結果設問1では体育に対して肯定的な回答29人(85%)であり、否定的な回答が5人(15%)である。設問2、3のマット運動に関連するものでは、設問2は肯定的な回答21人(61%)否定的な回答13人(39%)設問3では、肯定的な回答17人(50%)否定的な回答(50%)で同数となった。設問4の課題を立てる設問では、「どちらかといえばできている」が最も多く、18人(53%)だった。また、設問1～3で、否定的な回答をした児童には理由も回答させた。その結果、体がかたい、けがをするかもしれないから、苦手のできないなどの理由が考えられた。

これらの結果から本学級の児童は、体育が得意であったり好きであったりする児童が多く、授業に意欲的に取り組んでいる児童が多い印象を受ける。しかし、器械運動(マット運動等)を好きな児童が、体育が好きな児童より少ないことから、器械運動に苦手意識を持っている児童がいる。課題を設定することに対して取り組んでいる児童が多い。課題解決をすることに対して肯定的な意見が多く、自分で考えながら運動することができていると考えるが、自らの課題を解決するには、どうすればできるかを具体的に考えて実行する児童は多くない。本学級は、友達と話をすることが好きな児童が多いこともあって、友達と意見を交流させることに抵抗は少なく、積極的に行うことが、技能的なアドバイスをする児童は少ないように考える。

これらのことから、本学級の児童は、自分の課題を立ててどのように解決するかを考えて動くこと、技能的なアドバイスをすることに課題がある。そのために、スモールステップで課題を設定して、自分で考えやすいようにする。また、技能的なアドバイスをしやすいように、技のポイントをわかりやすく示して、児童が考えやすいようにする。

(2) 単元設定の理由

本題材は、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の内容B器械運動の(1)アを受けて設定したものである。今回は安定した基本技や発展技に挑戦をし、児童が自身にあったものを選び組み合わせを考えながら演技をできるようにする。またICTを活用して、自分の姿を映した動画をお手本動画と比較することで、自らの課題を設定させやすいようにする。

活動の最後には、グループで発表することを見通しとしてもたせ、練習の中から意見交換をする場を設けることで児童が自身の技を客観的にとらえること、互いの動きを見て課題を発見することができるようにしていきたい。また、意見交換をする中で互いを認め合えるような声掛け、雰囲気作りをして学級の児童全体が運動に積極的に取り組めるようにしていきたい。

3 研究の視点とのかかわり

<研究主題>

自ら課題を見出し、協働学習を通して豊かに表現することのできる児童の育成

<研究主題>

自分のよさを認められる児童の育成

(4) STEAMS教育上の研究の視点

	視点① 児童が自ら課題を見出すための学習の工夫	視点② 児童が協働学習を通して豊かに表現するための支援
具体的な手だて	ア スモールステップの課題を設定することで、自身で確認しながら練習の場を選ぶことができるようにする。 イ 動画で自分の姿を見ることで、自身の課題を見付けやすいようにする。	ア 学級全体で見通しをもって取り組めるようにするために、学習計画を掲示し、各時間に活動内容を確認する。 イ 発表の構成を考える中で、ワークシートを用いて、技のポイントなどを自分で確認できるようにする。

(5) 人権教育上の研究の視点

	視点① 児童が自他のよさを認めるための工夫
具体的な手だて	ア 体育の中で生かせるふわふわ言葉を共有したり、教師が率先して実践したりして意欲的に肯定的な言葉を使えるようにする。 イ ふわふわ言葉のほかに場面に合わせた言葉を、児童が場面に応じて活用できるようにする。

4 評価の観点及び評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行うことができる。 ② 基本技や発展技を繰り返したり組み合わせたりすることができる。	① 自己の能力に適した課題を見付けることができる。 ② ペアやグループで観察し合って、見付けたことや分かったことを仲間やグループに伝えることができる。	① マット運動の基本的な技や発展技に積極的に取り組んでいる。 ② けがのないように、学習の仕方や約束を守り、仲間と協力しながら、服装や髪形に気を付けたり、場の危険物を取り除いたり、器械・器具の安全に気を配っている。 ③ 観察し合い、分かったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりする際に仲間の考えを認めようとしている。

5 単元の指導計画（8時間扱い） 本時○印 6／8時

時間	1	2	3	4	5	⑥本時	7	8	
ねらい	学習の進め方を知り、マット運動に対する意識を高めることができる。	基本技や発展技の行い方を確認し、自己の能力に適した回転系や巧技系の技を安定して行うことができる。自己の能力に適した課題を見つけ、課題に応じた場や段階を選んだりすることができる。			グループ内で互いのできる技を確認し、発表に向けて技の組み合わせなど、構成を考えたり技の調整をしたりすることのできるようにする。		グループ内で互いの技を見合って技や発表の精度を高められるようにする。	安定した技を意識して基本技や発展技の組み合わせを発表したり、鑑賞したりできるようにする。	
指導内容	・学習計画づくり ・目標設定 ・安全な運動の仕方	・「安定した技」のポイント確認 ・個人・ペア・グループで基本技や発展技の練習 ・練習した技の記録、ふりかえり			・発表に向けての約束の確認 ・6年生の技の確認 ・各グループでの構成の確認、練習、調整 ・動画記録をして技の確認、振り返り		・発表会の予行練習	・最終発表会 ・鑑賞会	
学習過程	1 単元の学習課題を知る。 2 学習の約束を知る。 3 準備片付けの仕方を知る。 4 動画を見せてイメージをもたせる。 5 6年生で習う技を確認する。 6 学習を振り返る	1 集合・整列・挨拶をする。 2 準備運動をする。 3 準備を行う 4 パワーアップタイムを行う。 5 めあて1の確認をする。							
		6 前転系の技の確認	6 後転系の技の練習	5 側方倒立回転の技の練習	6 6年生の技の練習		6 課題の確認	6 グループで順番や構成、技の注意点などの最終チェックをする 7 発表・鑑賞する 8 学習を振り返る	
		7 課題の確認をする。	7 課題の確認をする	7 課題の確認をする	7 めあて2の確認	7 グループ練習			
8 6年生で行う技の練習(倒立前転)(跳び前転)(ロンダート)	8 6年生で行う技の練習(倒立前転)(跳び前転)(ロンダート)	8 6年生で行う技の練習(倒立前転)(跳び前転)(ロンダート)	8 グループで練習する	8 学習を振り返る					
	9 学習を振り返る	9 学習を振り返る	9 学習を振り返る	1 1 整理運動、片付け、挨拶を行う		9 整理運動、片付け、挨拶を行う	9 整理運動、片付け、挨拶を行う		
技	前転 後転 倒立前転 跳び前転 ロンダート	前転 開脚前転 伸膝前転 倒立前転 跳び前転 ロンダート	後転 開脚後転 伸膝後転 倒立前転 跳び前転 ロンダート	側方倒立回転 倒立前転 跳び前転 ロンダート	前転 開脚前転 伸膝前転 後転 開脚後転 伸膝後転 倒立前転 跳び前転 ロンダート等		5. 6時間目と同様	7時間目と同様	
ICT	動画共有・基本技要点共有	基本技・発展技要点共有 動画撮影での技の記録			技要点共有・技・発表の記録		技要点共有・発表の記録	技要点共有・発表の記録	
評価計画	知・技	1			2		2	1 2	
	思・判・表	1			2				
	主	1 2	1、3			3	2 3	2	
	方法	観察・ノート	観察・ノート			観察・ノート		観察・ノート	観察・ノート
	場面	5	5、7			6		6	5、6
研究の手立て	STEAMS①ア 人権①イ	STEAMS①ア・イ 人権①ア			STEAMS②ア 人権①ア、イ		STEAMS②イ 人権①ア、イ	STEAMS①イ	

6 本時のねらい

○課題を解決するために、複数の場から自己の課題に適した練習場所を選ぶことができる。【思考力・判断力・表現力等】

○観察し合い、分かったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりする際に仲間の考えを認めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

7 本時の指導（6／8時）

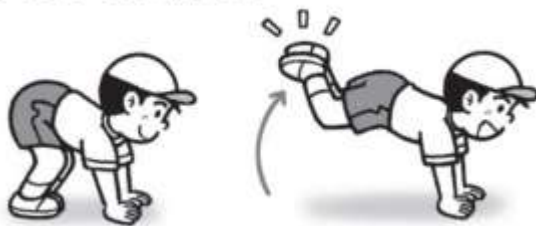
(1) 準備

- ・マット ・タブレット PC ・掲示資料

(2) 展開

児童の活動	指導上の留意点（・） 予想される反応（○）	【観点】〈評価方法〉 ★STEAMS 教育上の配慮 ☆人権教育上の配慮	時間
1 集合・整列 挨拶を行う。	・あいさつ、返事を通して活動への気持ちを整えさせる。		1
2 準備運動を行う。	・マット運動で使う、腕や首などをよく伸ばさせる。		3
3 準備を行う。	・素早く安全に運べるようにさせる。 ・安全面を意識させる。		3
4 パワーアップタイム かえるのあしうち 手押し車 壁倒立 前転 後転	・安全面を意識することを確認してから準備を始めさせる。 ・腰を高く上げることをどの技でも意識させる。		5

【かえるの足打ち】



☆壁登り倒立

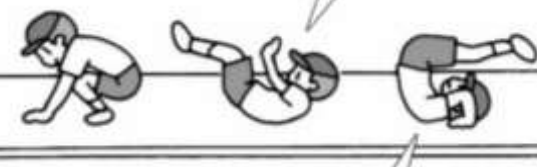
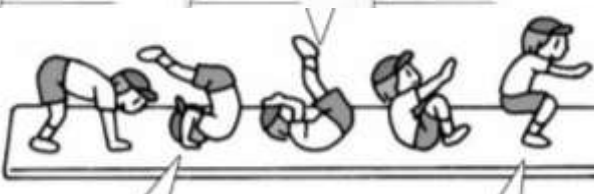
両足を壁に着けて
手を壁に
近づける





☆立位からの壁倒立

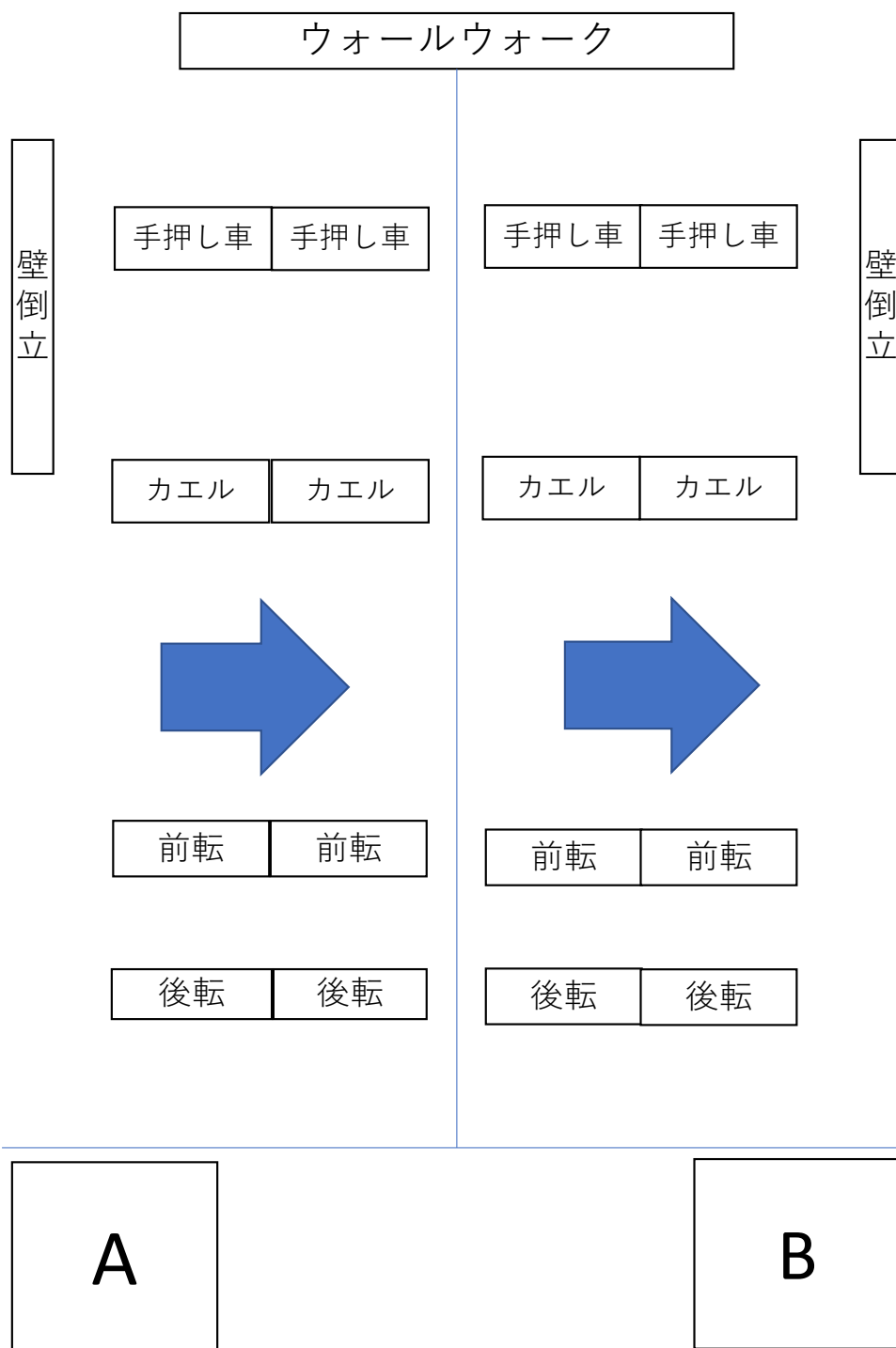
足で蹴って
あごを出す

体を
反らす

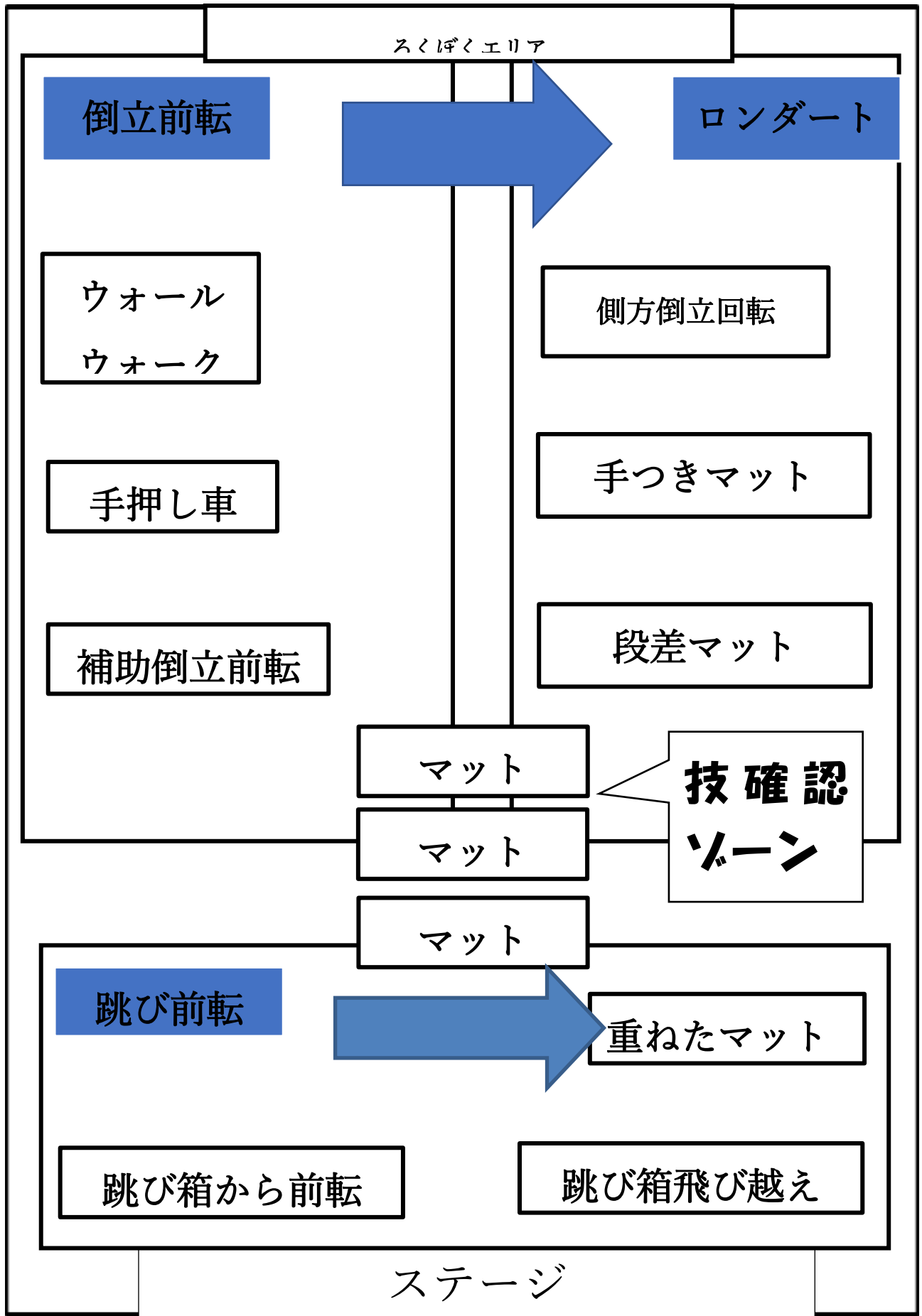


<p>5 本時のめあて1を確認する。</p> <p>6 六年生の技の練習をする。</p> <p>7 めあて2の確認</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">めあて1 6年生の技をレベルアップさせよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・技のポイントを確認させる。 ・ペアで学習して、アドバイスをさせる。 ・苦手な児童には、児童が補助をするように指導する。 ・自分の課題に適している場なのか確認させる。 ・タイムシフトカメラを活用してもいいように児童に選択させる。 ・自らの課題が何かをペアに伝えさせる。 	<p>1</p> <p>★練習方法をスモールステップにして自ら課題を選ぶ。 ○課題を解決するために、複数の場から自己の課題に適した練習場所を選ぶことができる。 【思考力・判断力・表現力等】 〈観察〉〈ワークシート〉</p>	<p>1</p> <p>10</p>
<p>8 グループで練習する</p> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">めあて2 グループで発表会の推しポイントを考え練習しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでどのようなことに注目してほしいか考えさせる。 ・グループで構成を考えながら練習を行わせる。 ・マットをなおすなど安全面に意識させる。 	<p>☆異質グループにて、アドバイスをを行い、いろいろな人がいることを知る。 ・観察し合い、分かったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりする際に仲間の考えを認めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】〈観察〉〈ワークシート〉</p>	<p>10</p>
<p>9 撮影タイム</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影をするか、練習を続けるか自分たちで考えさせながら練習させる。 		<p>3</p>
<p>10 学習を振り返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を達成することができたか、グループでの課題を考え、実行することができたかを考えさせる。 		<p>4</p>
<p>11 整理運動・片付け・挨拶を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全にできるように、声をかける。 		<p>5</p>

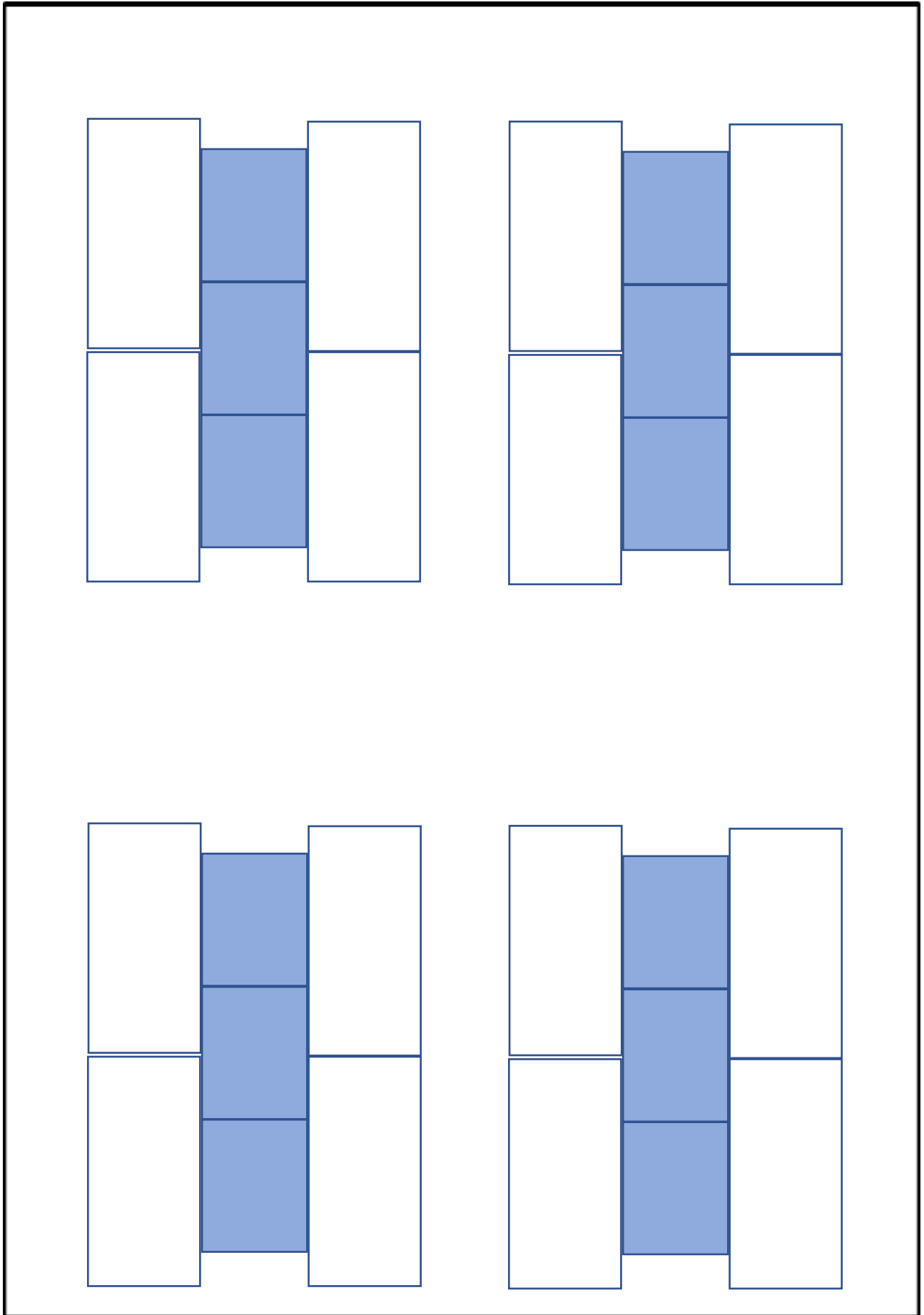
パワーアップタイム配置



6年生の技エリア



グループ練習



【協議会まとめ 6年「マット運動」】

<成果と課題>

STEAMS 教育	人権教育
<p>○タブレットの使い方は<u>毎時間撮影をしない</u>形でいい。活動の時間を確保することができていた。</p> <p>○自分の課題に合う場所を選んで移動することができていた。できない箇所の一つ前に戻って挑戦している姿があった。</p> <p>○最初と最後に課題について聞いて、<u>全体が課題意識をもつことに効果的</u>であった。</p>	<p>○教師が授業で積極的にほめることで児童が褒めやすい環境を作り、<u>子どもの意欲の向上</u>に繋がった。</p> <p>○ペアやグループでの活動を取り入れることで、児童が関わりやすい環境を作ることで、積極的に関わる様子が見られた。</p>
<p>●<u>めあてに対してどのように課題をもって</u>取り組ませることができるのか。</p> <p>●同質グループであまりできていない児童には、<u>動画を見させた</u>ほうが、課題を見つけて解決しやすくなるのではないか。</p> <p>●押しポイントを確認するためにも動画が必要であったのではないか。</p> <p>●個人の振り返りだけでなく、グループとしての課題を考える必要があった。</p>	<p>●異質集団だとアドバイスをすることがしやすいが、同質集団であると、低いレベルの児童がアドバイスするのが難しいようであった。</p> <p>●<u>褒める言葉を固定化</u>すると、誰でも言いやすいようにすることができると考えられる。</p>

<指導講評> 指導1課 大澤 諭 主任指導主事

- ・体育は仮説と検証の繰り返しをすることで、自分の課題を少しずつ解決することができるようになる。
- ・ICTの活用は、児童が自分で考えて選ぶことができることがよいが、何のためにどのように使うかは教員が教える必要がある。詳しく教えて効果的に活用していくことが必要である。
- ・課題に沿った場所を選ぶことができている児童がいた。自分で友達の技を見て、何が足りないかを考え、自分の技に活かそうとしている姿があり、その姿勢を児童全員がもてるようにするとよい。
- ・体が大きくて、動かすことが難しい児童や、苦手意識が強くて動かすことができない児童には、教員がこちらから働きかけて、自分が少しでも技に挑戦することができたという自己達成感を感じられるようにしていく。
- ・授業をやるうえでは、学習規律がとても大切であり、児童が安全に楽しく活動することができるようにしていく。体育は、日頃の学級経営が出やすい。
- ・ワークシートに何を書かせたいのかを明確にさせる必要があり、日頃から指導をしていくことが重要である。

3 専門部の取り組み

(1) 授業研究部まとめ

・活動報告

授業研究組織（パート研修チーム）の提案

昨年度から学年ブロックに分かれ、研究を進めてきた。しかし、自分の担当した研究内容についての理解は深まったのだが、他のブロックの研修の内容については、共有しきれずに終わってしまうという課題があった。そのため、昨年度の成果を生かした研究をしようとしても、内容が共有しきれていないことより成果や反省をよく理解しないまま指導案を作成していく事態が出てきた。

その反省を踏まえ、今年度の研修では、昨年度の研究から“繋がり深まっていく”ものを目指し、一人ひとりが自分事にして研修を見ていくパート研修チームの組織を提案した。

この研究組織は、各学年1人が研究教科（算数・図工・体育）のいずれかに加わり、学習の系統性を考慮したり、授業者の指導案の不安材料を元に多くの視点で考えたり、各学年内に情報を伝達したりする等、主体的に授業研究に携わることができる縦割りの研究組織である。

研修の場所	ブロック研修	パート研修	専門部
6-1	低学年	図工	授業研究部
6-2	中学年	算数	調査紀要部
6-3	高学年	体育	環境整備部

○成果

- ・指導案を一緒に考える工程を踏む事から、チームのメンバーが、参観する視点をもって参観することができた。
- ・ブロック研修メンバーだけでなくパート研修メンバーが指導案検討から携わったことにより複数の授業参観が主体的にすることができた。
- ・共通した研究の視点を意識しながら研究協議ができた。

●課題

- ・公開授業の協議会が持てなかったことから公開した授業の振り返りができずに終わってしまった。
- ・公開授業、研究授業の発表回数が多い事から自分のクラスの自習時間が増えてしまった。
- ・教科が多いと成果が見えづらくなる。研究教科をしばらくパートメンバーを増やすことで、研究の内容充実に向けて組織編制をしても良かった。

(2) 環境整備部まとめ

・活動報告

人権標語掲示による児童への啓発

〈各学級で取り組んだ人権標語を掲示〉



〈人権啓発標語、学年・学級代表の人権標語を掲示〉



STEAMS教育

〈「学習の進め方」の学級用掲示〉

低学年用



中・高学年用



〈各学年の取り組みの掲示〉



○成果

- ・全校児童で人権標語に取り組み、全員の作品を掲示したことで、人権を尊重することの意識を高めることができた。
- ・アートステージに代表児童の人権標語を掲示したことで、興味をもって見ることができた。
- ・STEAMS教育では、「学習の進め方」を各クラスの学習で活用できるようにした。また、アートステージに各学年の取り組みを掲示したことで、活動の様子や友達の考え・作品のよいところを他学年にも広めることができた。

●課題

- ・人権標語では、掲示だけでなく、期間を決めて学級のめあてとして、標語を何点かとり上げて活用していくとよかった。
- ・STEAMS教育で活用していく掲示物については、板書に貼ることで学習の流れがわかるようにできるとよかった。

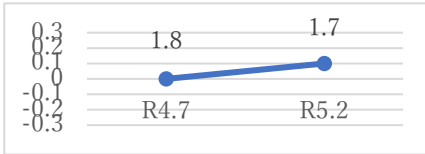
(3) 調査紀要部

※1が最も肯定的な回答になっています。

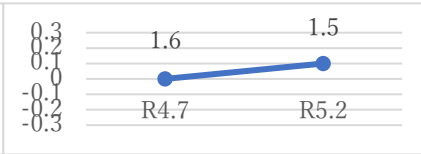
※R4.7の数値を0（基準）として比較しています。

<成果と課題>

【STEAMS】



「自ら課題を見出すことができる。」

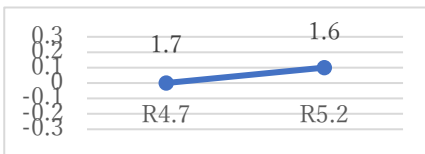


「協働学習ができる。」

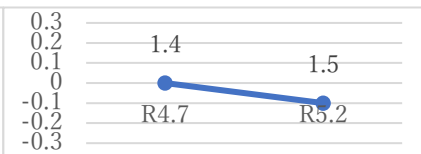


「豊かに表現することができる。」

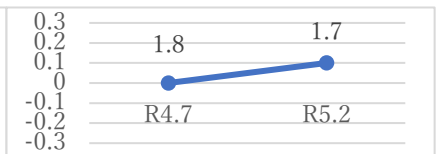
【人権】



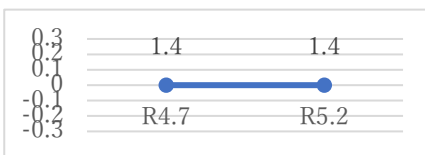
「私は、忙しいときに、友達に『手伝って』と言うことができます。」



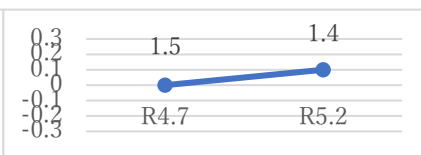
「私は、自分のことばかり話をしないで、友達の話じっくりと聞くことができます。」



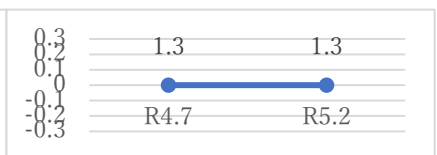
「私は、自分の気持ちや考えなどを、素直に言うことができます。」



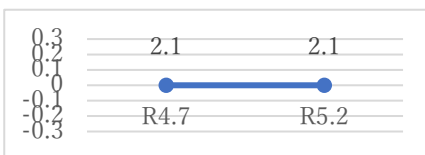
「私の友達は、私の考えや意見をよく聞いてくれます。」



「私の友達は、私が困ったときに相談にのってくれると思います。」



「私には、信頼できる友達や家族がいます。」



「私は、自分のことが好きです。」



「私には、ほかの人にはない良いところが、いっぱいあります。」



「疑問に思ったことを調べてみたいと思いますか。」



「疑問に思ったことを友達と話し合っって協力して調べてみたいと思いませんか。」



「調べたことを書いたり発表したりしたいと思いませんか。」

＜成果と課題＞

○成果

- ・アンケート項目の「自ら課題を見出すことができる。」と「疑問に思ったことを調べてみたいと思いませんか。」「協働学習ができる」のポイントがそれぞれ0.1ずつ上がっている。これは、研修を通して全教員が「STEAMS 教育」を捉えなおし、意識して授業を行った結果によるものであり、学校全体としての取り組みの効果が少しずつ表れているように思われる。

●課題

- ・アンケート項目の「私は、自分のことばかり話をしないで、友達のことをじっくりと聞くことができます。」と「私には、ほかの人にはない良いところが、いっぱいあります。」のポイントが、それぞれ0.1ポイントずつ下がっている。継続的な手立てとして、アートステージを活用しているが、児童への啓発や活用方法にまだ改善の余地が見られるように思われる。次年度への課題改善の肝にしていきたい

4 まとめ

今年度は、算数、図工、体育の3教科において、各教科の特性を大切にしながら、授業の中で児童の主体性をはぐくむための活動を積極的に取り入れた。その結果、どの授業においても児童が生き生きと活動する姿が見られ、探究するための素地をはぐくむ手立てとしては、一定の成果を得ることができたのではないかと考える。また、教員もこれまでの固定概念にとらわれることなく自身の授業を見直し、指導の幅を広げられるようになっていったことは成果であった。

しかしながら、「主体性をはぐくむ活動」自体が教師主導で行われてしまう点については課題が残る。自己肯定感の低い児童が多い本校では、教員が児童を信頼しながらサポートし、自己決定していけるような授業を展開していくための全校での取り組みを検討する必要がある。また、児童が自己決定するために必要な基礎的な学力を向上させ、日々の学習について児童自身が充実していることを実感できるような活動を取り入れることも重要である。これらについて、次年度はより一層注力していきたい。